

令和5年度研究について

研究推進委員会

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
～主体的な学びを促す導入の工夫～

2 仮説

(仮説1)「見いだす」場면을計画して問題を解決する必要性を感じさせ、知的好奇心を高めれば主体的に学習に取り組むことができるだろう。

(仮説2)既習の内容や方法を振り返ることで、見通しをもって粘り強く学習に取り組むことができるだろう。

3 研究主題について

新学習指導要領では、児童に必要な素質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化していくための視点として「主体的・対話的で深い学び」が示された。県で取り組む「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを重視し、それを活用した授業改善を進めていくことが必要である。

本校では、力を合わせ、大きく伸びる子の育成を目指し、日々の教育活動を通してその具現化に努めている。また、調和の取れた豊かでたくましい人間性を培うとともに新しい時代の変化に主体的に対応できる児童の育成をめざしている。児童が自ら疑問をもち、主体的に学ぶためには、課題を「見いだす」場面が必要かつ重要であると考えられる。しかし、児童には疑問をもったり課題を明確にしたりすることに自信や意欲をもてない様子が見られる。本校にとって、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要である。そのため、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用することは、児童が自分の疑問をもったり、それまでの学習内容や方法を振り返ったりする道具となり、大きな力を獲得することができるであろうと考え、本主題を設定した。

4 仮説について

(仮説1)

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムには、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の4つの学習過程がある。その教科や単元で児童に身に付けさせたい力は何かを考え、その達成のために必要となる学びは何か、どの学習過程が効果的なのか、といったことを計画的に考えることが大切である。授業の導入に、児童が「なぜ?」「どうして?」と思うような問いを工夫することで、児童の主体的な学びを引き出すことができると考える。

(仮説2)

既習の内容を振り返る場面を設定することで、「自分で取り組む」につなげ、その後の学習場面でも粘り強く取り組むことができるようになると思う。

○「主体的・対話的で深い学び」とは。(文科省より)

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

